

特別展

縄文  
2021  
— 東京に生きた縄文人 —



## CONTENTS

- ・企画展 ひきつがれる都市の記憶—江戸東京3万年史
- ・動画「いっしょに学ぼう 昔の道具」のご紹介
- ・研究の散歩道 男の幽霊像・小幡小平次と「小平次物」

特別展

# 縄文2021——東京に生きた縄文人——

10月9日(土)～12月5日(日) 1階 特別展示室

1万年以上にわたって続いた縄文時代。この長い時代を生き、縄文人の「生」の暮らしは、どのようなものだったのでしょうか？ 江戸東京博物館では、江戸東京の暮らしや文化をふり返る礎として、その源流ともいえる縄文時代の人びと、特に東京の縄文人の暮らしに焦点をあてた展覧会を開催します。

東京という地域の縄文時代を考える大規模な展覧会は、1986年(昭和61)2月に銀座ソニービルで開幕した「第2回 東京の遺跡展」(主催・東京都教育委員会)以来、35年ぶりとなります。本展を通じて、縄文時代の東京を感じ取り、考古学の新たな楽しみ方を発見していただければ幸いです。

当館では、これまで江戸東京の様々な暮らしや文化を歴史資料にもとづいて復元・再現した展示を行ってきました。その実績を活かし、最新の調査成果から考える縄文時代像を展示します。その際、縄文時代の出土品が、どのような場所でのどのように利用されていたか、生活空間や道具を復元模型や映像などを用いて具体的に再現し、当時の生活の復元を試みます。

【展示構成】(予定)

## プロローグ

### 第1章

東京の縄文遺跡発掘史

### 第2章

縄文時代の東京を考える

### 第3章

縄文人の暮らし

### 第4章

考古学の未来

エピローグ

**見どころ1**  
「さながら『縄文ゾーン』」  
復元模型が織りなす  
縄文の暮らし

江戸東京博物館5・6階常設展示室の魅力は、なんといっても江戸東京の暮らしを再現した復元模型。1階特別展示室を会場とする本展では、2つの復元模型が縄文時代のムラの様子を再現。当時の生活空間を実感してもらうとともに、常設展示室「江戸・東京ゾーン」の模型とも比較してみてください。

**見どころ2**  
「多彩な土偶が100点以上  
縄文人の姿を物語る」

写真はもちろん肖像画もなかった縄文時代。それでも人び



全身がほぼ完存する大形土偶  
顔に仮面をつけた姿を思わせる

国宝 土偶(仮面の女神)  
芽野市所蔵 尖石縄文考古館保管  
展示期間:11月16日～12月5日(予定)



八ヶ岳山麓の土偶の特徴と  
造形の美しさを合わせ持つ

国宝 土偶(縄文のビーナス)  
芽野市所蔵 尖石縄文考古館保管  
展示期間:10月19日～11月14日(予定)



### 縄文時代草創期の狩りや暮らしを語る 一級資料

重要文化財 石槍（一部のみ展示）  
あきる野市前田耕地遺跡出土 縄文時代草創期  
東京都教育委員会蔵

とは、土偶や土面として自身の姿を今に残してくれました。本展で展示される土偶は100点以上。その表情から縄文人の思いが見えてきます。



### 出土した土偶は101点 多くの土偶を保有していたムラの社会的背景を 考える好資料

東京都指定有形文化財 土偶（一部のみ展示）  
多摩ニュータウンNo.9遺跡出土 縄文時代中期 東京都教育委員会蔵

#### 見どころ3

#### 道具の数々が 縄文人の息づかいを伝える

土、石、骨などなど。様々な素材から形作られた道具類が、

全6章からなる本展。東京に生きた縄文人の姿を知るだけではなく、東京の縄文発掘史から考古学の未来まで学ぶことができます。  
(学芸員 田原昇)

#### 見どころ4 今こそ学びたい 東京の縄文発掘史

当時の人びとによる素朴な生活と自然との共生をかいま見せてくれます。どのように使ったのか？ なぜこの形なのか？ 実用性と造形美の両面からお楽しみください。



### 遠隔地を結ぶ地域間交流1 東北地方南部からもたらされた土器

浅鉢形土器  
多摩ニュータウンNo.72遺跡出土 縄文時代中期 東京都教育委員会蔵



### 遠隔地を結ぶ地域間交流2 糸魚川産ヒスイによる装身具

翡翠製大珠  
多摩ニュータウンNo.72遺跡出土 縄文時代中期 東京都教育委員会蔵

#### 関連事業

本展にあわせて、江戸東京たてもの園でも特別展「縄文2021—縄文のくらしとたてもの—」を同時開催。園内では、実物大で製作した縄文時代の竪穴住居を展示します！

\*詳しくは裏表紙「江戸東京たてもの園から そよ風」を参照。

#### information

##### 特別展

### 「縄文2021—東京に生きた縄文人—」

開館時間：午前9時30分～午後5時30分 ※入館は閉館の30分前まで

休館日： 毎週月曜日

※ 会期中に展示替えがございます。

※ 新型コロナウイルス感染症などの状況によって、会期・休館日・開館時間・観覧料・各種割引サービス等を変更する場合がございます。

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館、朝日新聞社、NHK、文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会

特別協力：大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館、公益財団法人東京都スポーツ文化事業団 東京都埋蔵文化財センター

〈チケット販売所〉 江戸東京博物館、主要プレイガイド

※ 特別展・常設展共通券の販売は江戸東京博物館のみ。

観覧料 (税込)	特別展専用券	特別展・常設展共通券
一般	1,300円 (1,040円)	1,520円 (1,210円)
大学生・専門学校生	1,040円 (830円)	1,210円 (960円)
中学生(都外)・高校生・65歳以上	650円 (520円)	760円 (600円)
小学生・中学生(都内)	650円 (520円)	なし

※ ( )内は20名以上の団体料金。

※ 次の場合は特別展観覧料が無料です。未就学児童。身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・被爆者健康手帳をお持ちの方と、その付き添いの方(2名まで)。

※ 小学生と都内在住・在学の中学生は、常設展示室観覧料が無料のため、共通券はありません。

※ 開館時間の変更やシルバーデーの実施については、江戸東京博物館のホームページをご確認ください。

※ 本展覧会は、混雑緩和のため事前予約制となります。ご来館のお客様は日時指定の予約をお願いいたします(前売券の販売はございません)。本展覧会開幕の3週間前から日時指定券の販売を開始する予定です。くわしくは江戸東京博物館ホームページをご覧ください。

企画展

# ひきつがれる都市の記憶 —江戸東京3万年史

9月18日(土)～12月5日(日) \*会期中に展示替えがあります。  
常設展示室内 5F企画展示室

江戸東京博物館は1993年(平成5)に開館して以来、江戸東京の歴史と文化をふりかえり、未来の都市と生活を考える場として活動してきましたが、来年の4月から大規模改修工事に入ります。休館を前に、東京が歩んできたおよそ3万年におよぶ歴史をふりかえります。

【展示構成】

- プロローグ 現代によみがえる「歴史」の痕跡
- 第1章 旧石器時代から古墳時代まで
  - 生み出す力、暮らしの工夫
- 第2章 奈良時代から鎌倉時代まで
  - 武蔵国と武士の登場
- 第3章 南北朝時代から戦国時代まで
  - 江戸の成り立ち
- 第4章 江戸時代
  - 一大都市への成長とにぎわい
- 第5章 明治時代から現代まで
  - 近代国家としての首都東京
- エピローグ ひきつがれる「歴史」とともに



かんのおんづか 観音塚古墳出土 たちばなにわ 太刀形埴輪  
古墳時代 江戸東京たてももの園蔵  
資料番号 99347757

今日の東京は何千年、何万年という歴史の中でつくりあげられたものです。人類がこの地で生活していた痕跡が見つかっている旧石器時代は、3万年以上前までさかのぼります。想像するにはあまりに長い年月ですが、かつての人びとの暮らしぶりや社会の様相は、都市開発の過程で発見された遺跡や、人から人へ引き継がれてきた貴重な資料によって明らかにされてきました。

近年では、山手線の新駅として話題となった高輪ゲートウェイ駅の周辺から、1872年(明治5)に日本初の鉄道が開業した際の線路の遺構「高輪築堤」が発見されました。海上に線路を敷設す



東京高輪海岸蒸気車鉄道の図

歌川広重(3代)/画 1871年(明治4) 資料番号 07200611~3(3枚続) 展示期間:9月18日(土)~10月24日(日)

るために築かれた石垣は、まさに当時の錦絵に描かれた通りの姿で出土しました。

これまでも災害や戦争、繰り返される都市開発により、東京は絶えず変化を続けてきましたが、歴史的な建造物や、その土地の歴史を物語る場所は、価値を問い直されながら保存や活用が図られています。今日の東京にあらためて目を向けてみると、徳川將軍家の菩提寺として知られる増上寺と、その背後にそびえ立つ東京タワーのように、長く親しまれてきた名所と新たなランドマークが共存しながら発展を続ける都市の姿が見えてきます。

(学芸員 津田絃子)



武蔵国分寺跡出土 のきまる物さ のきむら物さ 軒丸瓦・軒平瓦  
奈良時代  
資料番号 91100001~3

えどはく  
チャンネル

## 動画「いっしょに学ぼう 昔の道具」のご紹介

新型コロナウイルス感染症が流行する前まで、常設展示室内で「さわってみよう！ 昔の道具」というワークショップを開催していました。学芸員と一緒に、昔の道具に触れながら、使い方や当時の暮らしを知ることができるプログラムです。昔の暮らしを知らない子供たちだけでなく、当時をよく知る大人たちも「懐かしい」と話しながら参加していました。

今は、感染防止のため以前のように開催できなくなりましたが、代わりに昔の道具を紹介する動画を制作し、YouTubeの「えどはくチャンネル」で公開しています。第1弾が黒電話・プッシュホン、第2弾が蓄音機・レコードです。ぜひ、いろいろな世代の方と一緒に、思い出話なども交えながらお楽しみください。

(学芸員 津田絃子)



えどはく  
チャンネルはこちら

# 男の幽霊像・小幡小平次と「小平次物」

学芸員  
岩崎茜・文

**幽** 霊と聞いて思い浮かべる姿は、

白装束に髪を振り乱し恨みを湛えた表情の女性ではないだろうか。日本の三天幽霊も、「四谷怪談」のお岩、「皿屋敷」のお菊、「牡丹灯籠」のお露といった女性の名前が並ぶ（「累ヶ淵」の累が入る説もある）。これらの幽霊像は、江戸時代から明治時代にかけての版本や浮世絵、歌舞伎や落語などの文芸・芸能の影響で定着したといわれている。執念を持った幽霊に女性が多いのは、封建社会において男性以上に抑圧されていた女性のフィクションにおける叛逆がもてはやされたためとの説もある。しかし、男性の幽霊も少なくはない。



怪談 木幡小平次 歌川国貞(初代)/画 1853年(嘉永6) 資料番号 91210078~9 (2枚続)

山東京伝の読本『復讐奇談安積沼』(1803年(享和3))に登場する小幡小平次はその筆頭であろう。歌舞伎役者の小平次は幽霊役で名を馳せるが、安積沼(現・福島県郡山

市)で妻の愛人・佐九郎に殺されてしまう。小平次は幽霊となり、愛人と妻に祟りをなすというあらすじだ。この怪談は「小平次物」として、鶴屋南北の「彩入御伽草」(1808年(文化5)初演)など、多くの演目に取り入れられた。歌舞伎役者にまつわる怪談のためか、芝居関係者の間では、小平次の話をするると本当に幽霊が出るとの噂があつたようだが、南北はそれをあえて歌舞伎として世に出した。「彩入御伽草」の上演時には、関係者による小平次の施餓鬼(無縁仏などを供養する仏事)が両国の回向院で行われたという。

同じく南北の「東海道四谷怪談」(1825年(文政8)初演)にも「小仏小平」という、小平次を連想させる人物が登場する。この小平は民谷伊右衛門に惨殺され、お岩の死体と共に戸板に括りつけられて、川へと流される。物語の終盤、隠亡堀にてお岩と小平が化けて出る有名な戸板返しシーンでも知られている。

「幽霊が怖くてコハダが食えるか」という江戸っ子の言葉もあるが、小平次は江戸の人びとにとって、恐ろしくも身近な存在であつたのかもしれない。そういった意味でも、男性の幽霊の代表格とも言えるのである。



四ツ谷怪談 戸板返之図 豊原国周/画 1884年(明治17) 資料番号 90203556~8 (3枚続)

くさかべきんべえ  
日下部金兵衛  
とうきようぎんざ  
「東京銀座尾張町角」

1839年(天保10)にフランスで発表され、1848年(弘化5・嘉永元)に日本へ渡来した写真術。目の前の光景を現実そのままに写し記録する写真は、その特性から多くの情報を私たちに与えてくれます。

明治20〜30年代初頭、来日外国人向けの土産物として、日本の名所風景や風俗習慣を写した写真が人気を博しました。鶏卵紙に焼き付けた写真には手彩色が施され、その多くが横浜で制作されたことから「横浜写真」と呼ばれます。外国人は日本の様子を自国へ伝えるため、これを買求めました。

本資料「東京銀座尾張町角」は、鶏卵紙に焼き付けられた写真に、カラー写真と見間違えほどの細やかな手彩色が施されています。撮影者の日下部金兵衛(1841〜1932)は多くの横浜写真を手がけた写真師であり、本資料もその中の一枚だと考えられます。



東京銀座尾張町角  
日下部金兵衛／撮影 明治20年代頃 資料番号 18750037

写されているのは明治20年代頃の銀座の街並み。中央に写る鉄道馬車は数年で電気鉄道へ移行するため、近代化によって様変わりする前の街を写した貴重な一枚です。

横浜写真は明治30年代半ば頃から急速に衰退していきませんが、現在もこうして写真が残されていることで、私達は当時の様子を知ることができます。(学芸員 三井彩紗)

図書室から  
お知らせ

図書室の仕事 Vol. 6

図書の検索とデータベース

― 読みたい本をもっと探しやすく! ―

図書室では、一般には入手しづらい本も含め、日々、図書資料の収集を行なっています。しかし、良い本をたくさん所蔵していても、それらが利活用できなければ意味がありません。そのためには、本のカバーかけ・補修などハード面を整えることとともに、その本がいまどこにあるか、効率的に検索できるデータベースが不可欠となります。

当館図書室では一冊の本を入手したら、タイトル・著者名・発行所・形態などの基本情報と、請求記号・収蔵場所など、本の置き場所を示す所在情報とを収蔵品管理システムに登録しています。また、目次や論文名、図録の展覧会情報や当館収蔵品掲載の有無などもくわしく入力しており、単なる目録にとどまらないデータベースとなっています。

利用者の皆さまが目的の一冊に出会えるように、今後もより利用しやすい検索システムを追求し続けていきます。



お知らせ

2021年4月に図書室の蔵書検索(OPAC)をリニューアルしました。検索項目が増え、より使いやすくなったOPACをぜひご利用ください。

<https://edo-tokyo-museum-ilb.opac.jp/cgi-bin/freefindc.cgi>



装飾把手付土器 八王子子中原遺跡出土  
縄文時代中期 江戸東京たてもの園蔵  
資料番号 99345785

## 特別展「縄文2021」 「縄文のくらしとたてもの」

令和3年10月9日(土)～令和4年5月29日(日)

江戸東京たてもの園では、江戸東京博物館で開催される特別展「縄文2021―東京に生きた縄文人―」にあわせ、特別展「縄文2021―縄文のくらしとたてもの―」と題した展覧会を開催します。

当園は1954年(昭和29)から1991年(平成3)まで開館していた「武蔵野郷土館」収集の資料を引き継ぎ、保存・展示しています。同館は、東京をはじめ関東地方一帯で発掘調査を行い、大きな成果を挙げました。そして、発掘調査で得た出土資料を展示するのみならず、竪穴住居や縮小した古墳などを屋外に復元することで、武蔵野の歴史を体感的に理解できる博物館でした。

今回の展覧会では、同館収集の資料を中心に縄文人のくらしぶりを紹介するとともに、各地に復元されている竪穴住居をとりあげ、当園に移築復元されている建物のルーツを紹介いたします。

(学芸員 阿部由紀洋)

## 江戸東京博物館デジタルアーカイブのご紹介

当館の主な収蔵品を公開・検索するサイトが、今年3月末に「江戸東京博物館デジタルアーカイブ」(収蔵品検索)としてリニューアル。ホームページのトップページ「目的別利用案内」から、「収蔵品検索」を選んでいただくと、該当ページが開きます。

「デジタルアーカイブ」の資料掲載ページは、より見やすくなるようレイアウトや内容などに工夫を凝らしました。資料画像の

拡大倍率を大きくし、細部までご覧いただけるようになりました。また、一部の資料には解説を施し、資料への理解を深めていただくようにいたしました。

さらに、郷土史家・喜多川周之氏の浅草コレクションをはじめ、当館の代表的なコレクション6種の紹介ページを新設し、各コレクションの特徴をご覧いただけるようにいたしました。

これらのページは、スマートフォンからもご利用いただけます。

コロナ禍の状況下、ご来館が難しい方もたくさんいらっしゃると思いますので、ご自宅などからお気軽に、このデジタルアーカイブで、当館収蔵品の数々をお楽しみください。



<https://www.edohakuarchives.jp/>

\*新型コロナウイルス感染症などの状況によって、会期・休館日・開館時間・観覧料・各種割引サービス等を変更する場合がございます。

## 江戸東京博物館 NEWS vol.114

お問い合わせ 03-3626-9974 (代表)

ホームページ <https://www.edo-tokyo-museum.or.jp>

来館のご案内 JR総武線「両国駅」西口から徒歩3分  
都営地下鉄大江戸線「両国駅(江戸東京博物館前)」A3・A4出口から徒歩1分  
都バス錦27・両28・門33系統 墨田区内循環バス南部ルート「都営両国駅前(江戸東京博物館前)」下車、徒歩3分

発行日 2021年9月17日(金)

編集・発行 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館

〒130-0015 東京都墨田区横網1-4-1

制作・印刷 株式会社D\_CODE



### 表紙解説

#### 多摩ニュータウンのピーナス(土偶)

多摩ニュータウンNo.471遺跡出土 縄文時代中期  
東京都教育委員会蔵

縄文時代中期前半の大型土偶の好例です。2009年にイギリスの大英博物館で開催された「土偶 The Power of the DOGU」でも展示されました。

#### ハート形土偶

板橋区赤塚城址貝塚出土 縄文時代後期  
江戸東京たてもの園蔵 資料番号 99345611

ほぼ完形に近い姿で出土した、縄文時代後期の土偶の逸品です。

(学芸員 田原昇)

